

男女共同参画に関する意識調査

【調査期間】 令和7年12月25日から令和8年1月30日まで

【調査対象】 千歳市在住の満18歳以上の男女 1,200名（住民基本台帳から無作為抽出）

【調査方法】 対象者へ調査票と返信用封筒を郵送

【回答方法】 郵送による返送またはweb回答

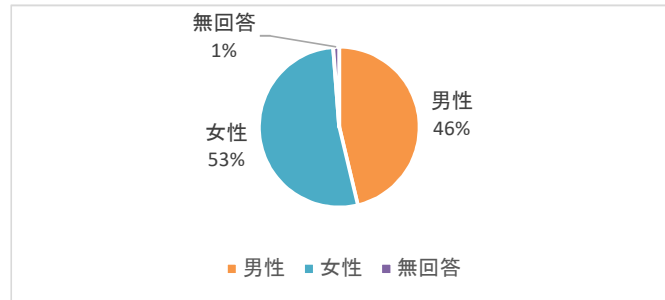
【回答数/回答率】 493人/1,200人 / 41.1%

【1】あなたの性別

《性別》

	男性	女性	無回答
人数	228	259	6

男女別の回収率は、男性が46%、女性が53%、無回答が1%となっており、女性の回収率が高くなっている。

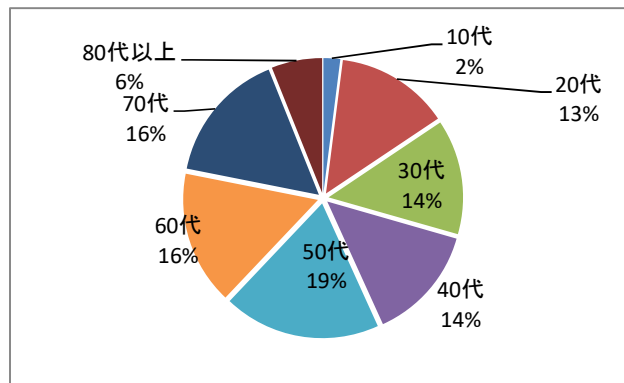


【2】あなたの年代

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
10	67	68	68	93	79	78	30

(人数)

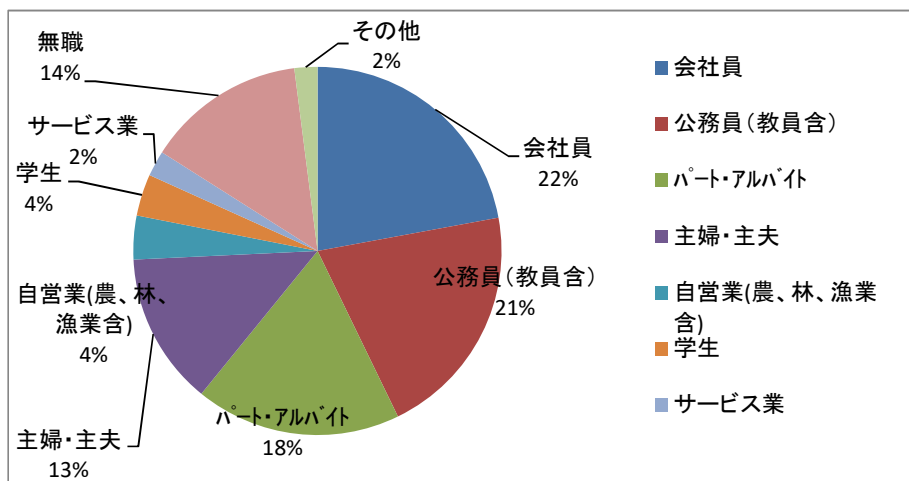
回答者の年代別内訳は、50代19%が最も高く、次いで70代16%・60代16%、となっている。



【3】あなたの職業

会社員	公務員（教員含）	パート・アルバイト	主婦・主夫	自営業（農、林、漁業含）	学生	サービス業	無職	その他
109	102	89	66	19	18	11	69	10

(人数)



職業別では、「会社員」が最も高く22%、次いで「公務員（教員含）」21%、「パート・アルバイト」18%、「無職」14%、「主婦・主夫」13%となっている。「その他」の職業としては、団体職員、派遣社員、非常勤公務員、事業専従者、会社役員、委託配布員。

※その他回答

（団体職員、派遣社員、非常勤公務員、事業専従者、会社役員、委託配布員）

【4】あなたは未婚ですか？既婚ですか？

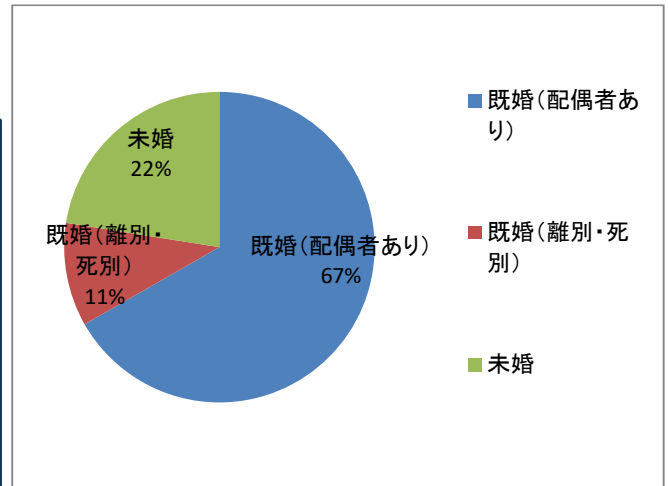
既婚（配偶者あり）	既婚（離別・死別）	未婚
329	53	111

（人数）

回答者の未婚・既婚の内訳は、「既婚（配偶者あり）」が67%、「既婚（離別・死別）」が11%、「未婚」22%となっている。

男女別にみると、男性の67%が既婚（配偶者あり）、7%が既婚（離別・死別）、26%が未婚となっているおり、女性の66%が既婚（配偶者あり）、14%が既婚（離別・死別）、20%が未婚となっている。

（男女別）		
既婚（配偶者あり）		
女性	171/	259（66%）
男性	153/	228（67%）
無回答	5/6	（83%）
既婚（離別・死別）		
女性	37/	259（14%）
男性	16/	228（7%）
無回答	0/6	（0%）
未婚		
女性	51/259	（20%）
男性	59/228	（26%）
無回答	1/6	（17%）

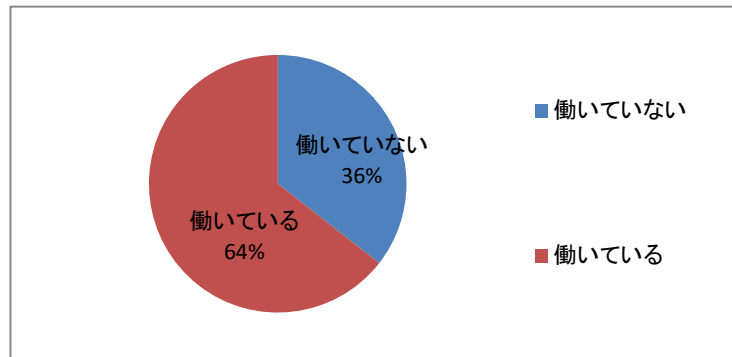


【5】あなたの配偶者（全体）

働いていない	働いている
117	212

（人数）

回答者の配偶者における就労状況は、「働いている」64%、「働いていない」36%となっている。

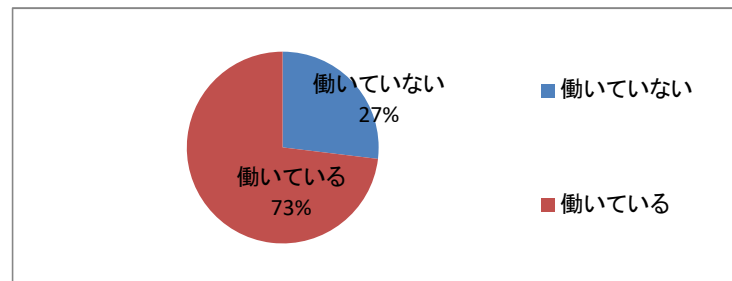


【5】あなたの配偶者（女性回答者分）

働いていない	働いている
46	125

（人数）

男女別では、女性回答者の配偶者における就労状況は、「働いている」73%、「働いていない」27%となっている。

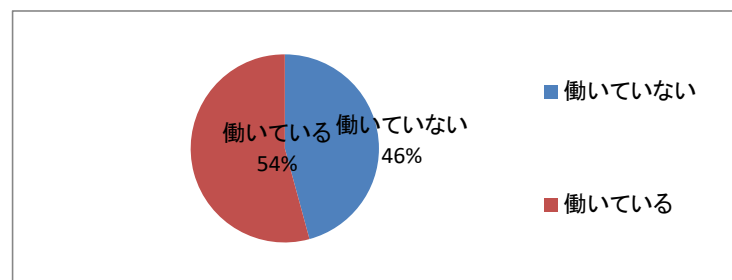


【5】あなたの配偶者（男性回答者分）

働いていない	働いている
70	83

（人数）

男女別では、男性回答者の配偶者における就労状況は、「働いている」54%、「働いていない」46%となっている。

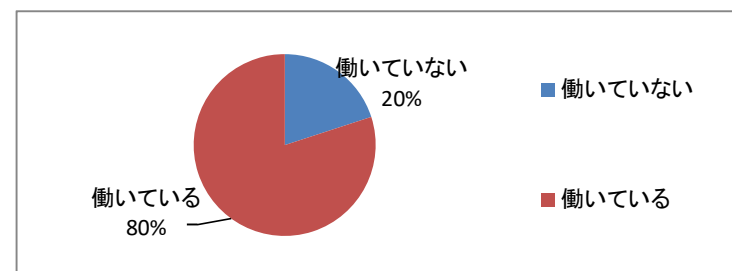


【5】あなたの配偶者（性別無回答者分）

働いていない	働いている
1	4

（人数）

性別無回答者の配偶者における就労状況は、「働いている」80%、「働いていない」20%となっている。



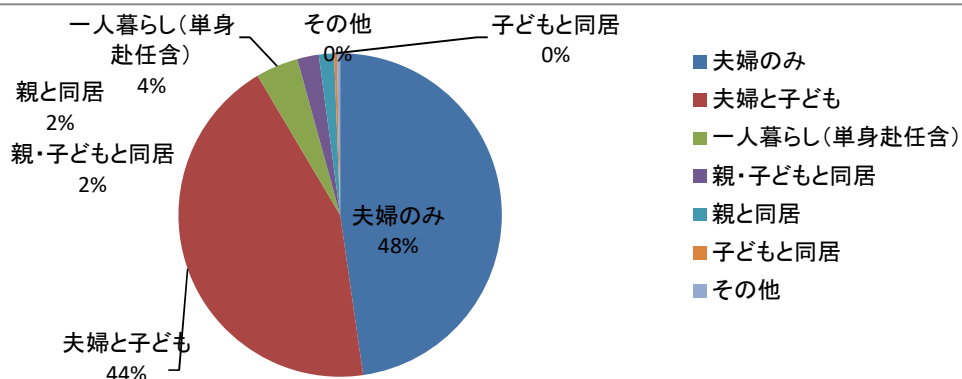
【6】あなたの同居家族(既婚（配偶者あり）回答者分)

夫婦のみ	夫婦と子ども	一人暮らし(単身赴任含)	親・子どもと同居	親と同居	子どもと同居	その他
157	144	14	7	5	1	1

(人数) 329人

回答者の同居家族形態別内訳について、既婚・未婚別でみた場合

「既婚(配偶者あり)」の回答者では、「夫婦のみ」48%で最も高く、次いで、「夫婦と子ども」44%と、「一人暮らし(単身赴任含)」4%となっている。



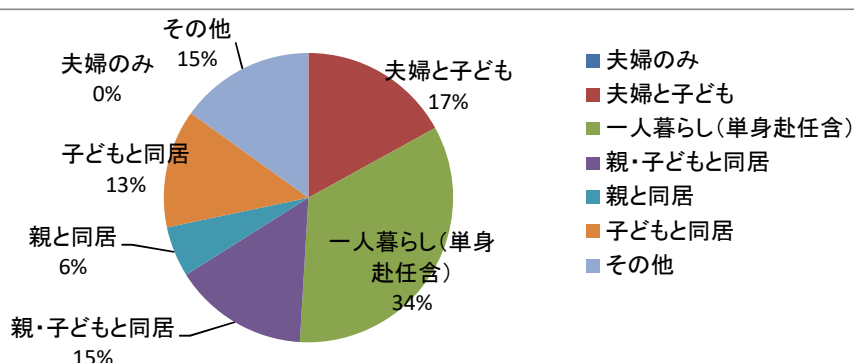
【6】あなたの同居家族(既婚（離別・死別）回答者分)

夫婦のみ	夫婦と子ども	一人暮らし(単身赴任含)	親・子どもと同居	親と同居	子どもと同居	その他
0	9	18	8	3	7	8

(人数) 53人

回答者の同居家族形態別内訳について、既婚・未婚別でみた場合

「既婚(離別・死別)」の回答者では、「一人暮らし(単身赴任含)」34%で最も高く、次いで、「夫婦と子ども」17%、「親・子どもと同居」15%、「その他」15%、「子どもと同居」13%となっている。「その他」の回答として、姉妹、パートナー、子ども夫婦と孫、子ども夫婦と孫と子との回答あり。



※ その他の回答 (姉妹、パートナー、子ども夫婦と孫、子ども夫婦と孫と子)

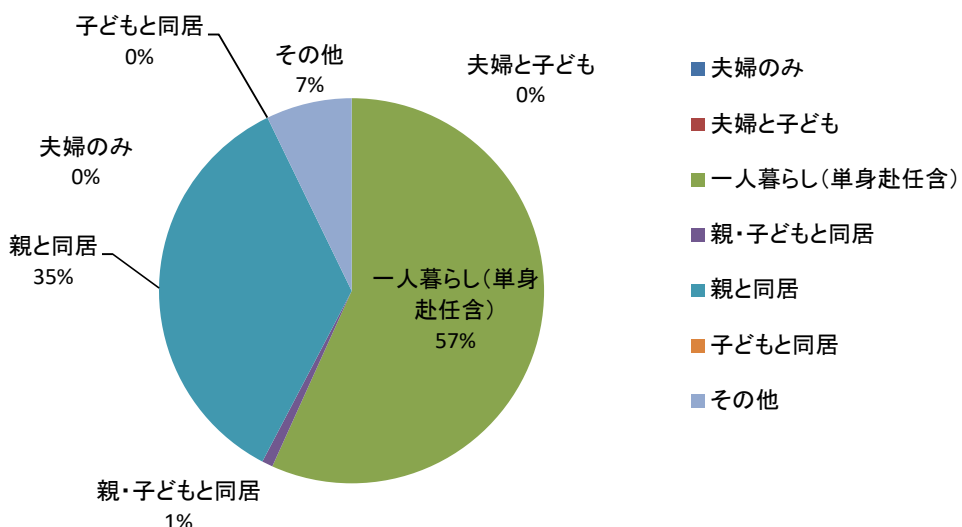
【6】あなたの同居家族(未婚回答者分)

夫婦のみ	夫婦と子ども	一人暮らし(単身赴任含)	親・子どもと同居	親と同居	子どもと同居	その他
0	0	63	1	39	0	8

(人数) 53人

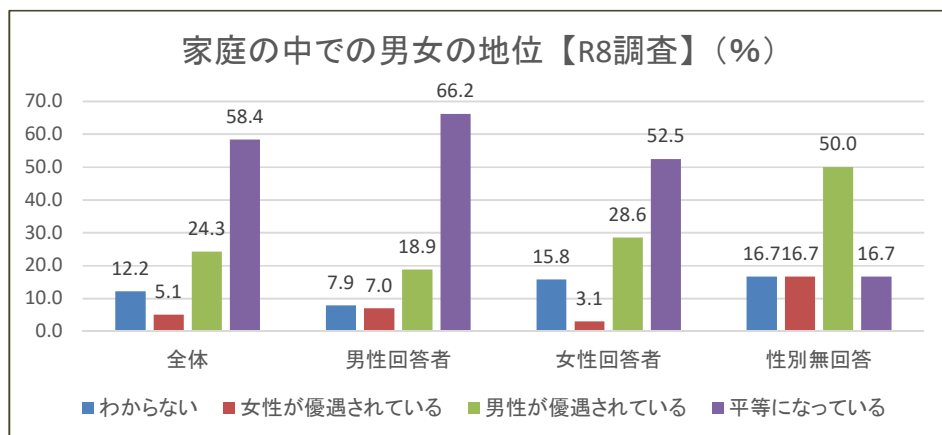
回答者の同居家族形態別内訳について、既婚・未婚別でみた場合

「未婚」の回答者では、「一人暮らし(単身赴任含)」57%で最も高く、次いで、「親と同居」35%となっている。



《男女共同参画についての設問》

次の各分野での「男女の地位」についてどう思いますか。【7】～【13】

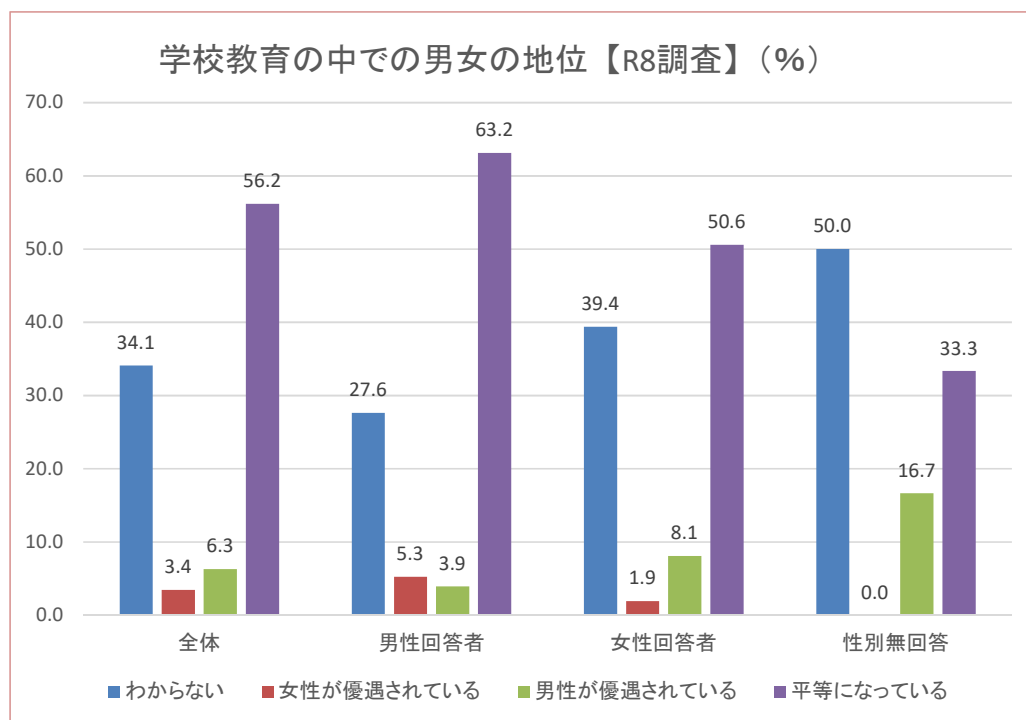
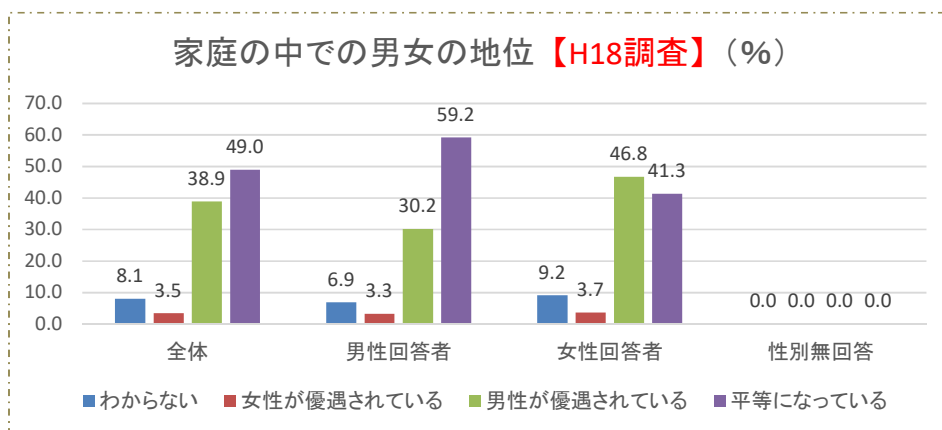


男女別では、男性の66.2%が「平等となっている」と回答し、「男性が優遇」18.9%を大きく上回っている。

《H18年度調査時と比較》
「平等となっている」回答の割合が高くなっている（H18:59.2%
⇒R8:66.2%）
「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:30.2%
⇒R8:18.9%）

また、女性の52.5%が「平等となっている」と回答し、「男性が優遇」28.6%を上回っている。

《H18年度調査時と比較》
「平等となっている」回答の割合が高くなっている（H18:41.3%
⇒R8:52.5%）
「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:46.8%
⇒R8:28.6%）

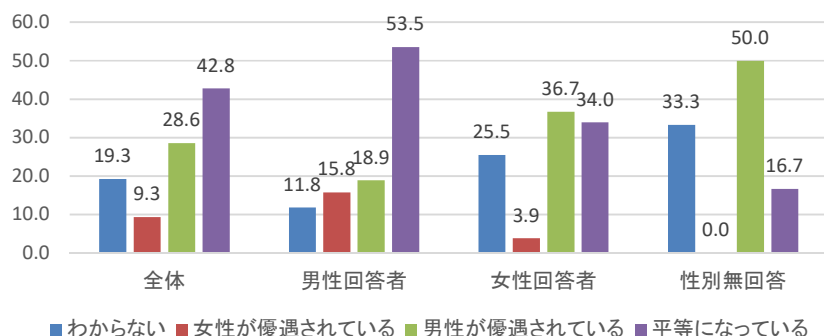


男女とも、「平等となっている」の回答が、半数以上となっている。

男性回答者 63.2%、
女性回答者 50.6%。

※H18年度調査時、この項目の質問なし

職場の中での男女の地位【R8調査】（％）



男女別では、男性の53.5%が「平等となっている」と回答し、「男性が優遇」18.9%を大きく上回っている。

《H18年度調査時と比較》

「平等となっている」回答の割合が高くなっている（H18:40.4%⇒R8:53.5%）

「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:41.2%⇒R8:18.9%）

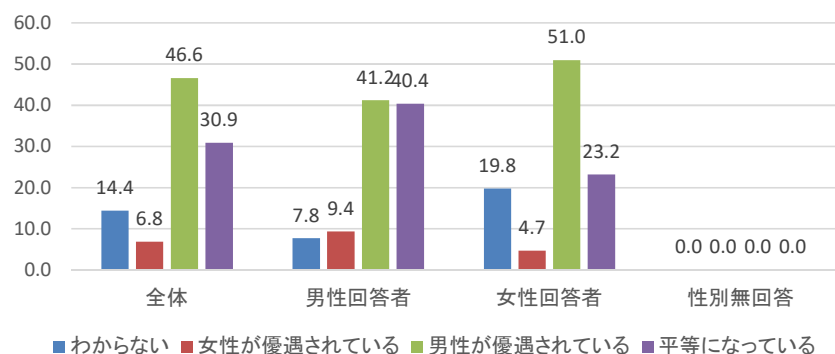
また、女性の36.7%が「男性が優遇」と回答し、「平等となっている」34.0%を上回っている。

《H18年度調査時と比較》

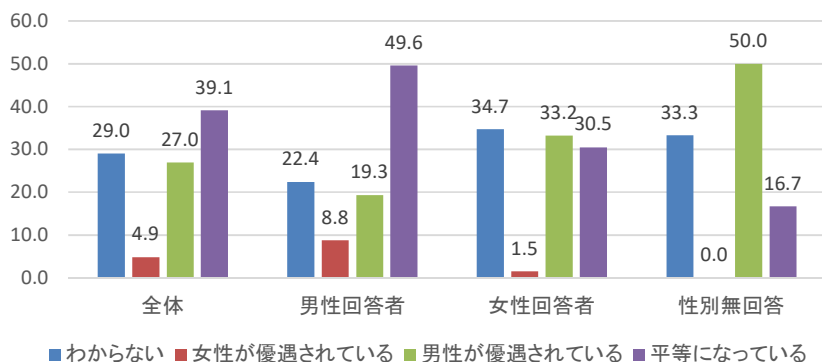
「平等となっている」回答の割合が高くなっている（H18:23.2%⇒R8:34.0%）

「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:51.0%⇒R8:36.7%）

職場の中での男女の地位【H18調査】（％）



地域社会の中での男女の地位【R8調査】（％）



男女別では、男性の49.6%が「平等となっている」と回答し、「男性が優遇」19.3%を大きく上回っている。

《H18年度調査時と比較》

「平等となっている」回答の割合が高くなっている（H18:36.3%⇒R8:49.6%）

「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:42.9%⇒R8:19.3%）

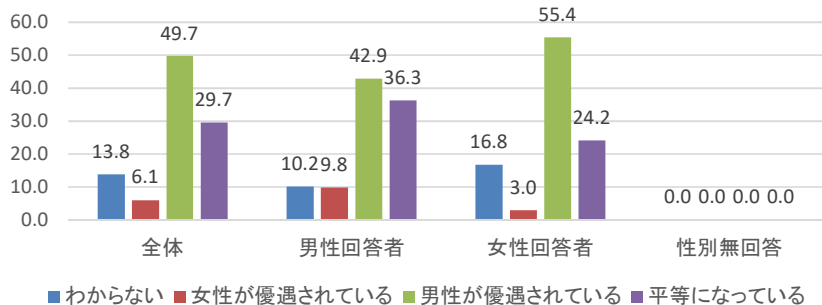
また、女性の33.2%が「男性が優遇」と回答し、「平等となっている」30.5%を上回っている。

《H18年度調査時と比較》

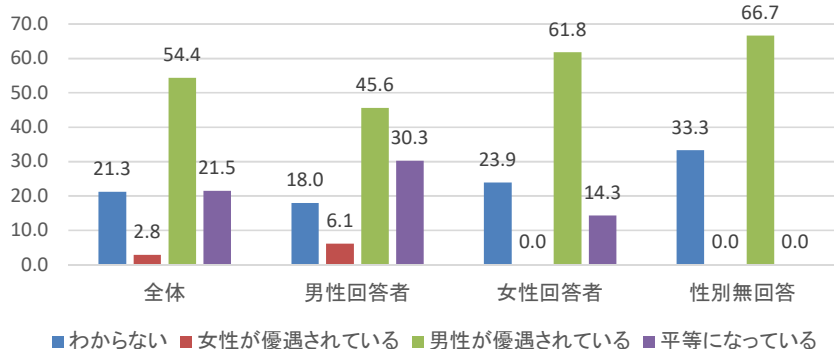
「平等となっている」回答の割合が高くなり（H18:24.2%⇒R8:30.5%）

「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:55.4%⇒R8:33.2%）

地域社会の中での男女の地位【H18調査】（％）



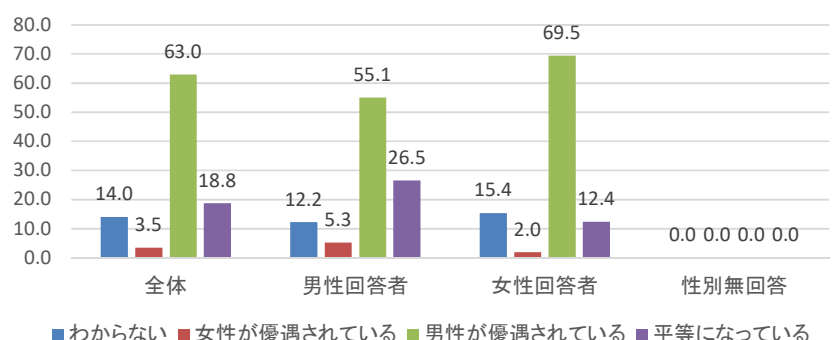
政治の中での男女の地位【R8調査】(%)



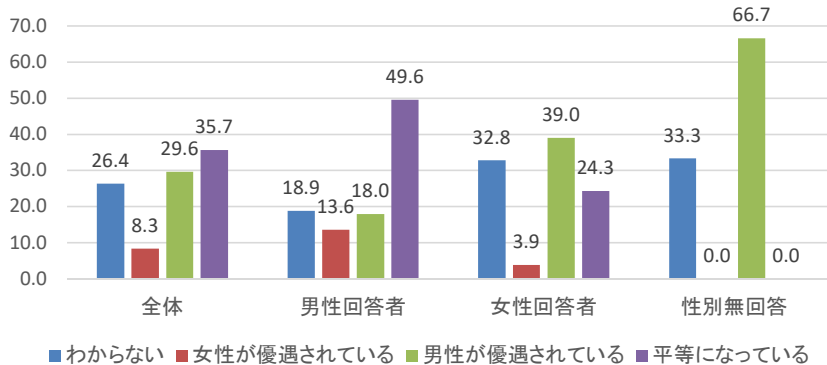
男女別では、男性の45.6%が「男性が優遇」と回答し、「平等になっている」30.3%を上回っている。
 ≪H18年度調査時と比較≫
 「平等となっている」回答の割合が高くなっている(H18:26.5%⇒R8:30.3%)
 「男性が優遇」回答の割合が低くなっている(H18:55.1%⇒R8:45.6%)

また、女性の61.8%が「男性が優遇」と回答し、「平等となっている」14.3%を大きく上回っている。
 ≪H18年度調査時と比較≫
 「平等となっている」回答の割合が高くなり(H18:12.4%⇒R8:14.3%)
 「男性が優遇」回答の割合が低くなっている(H18:69.5%⇒R8:61.8%)

政治の中での男女の地位【H18調査】(%)



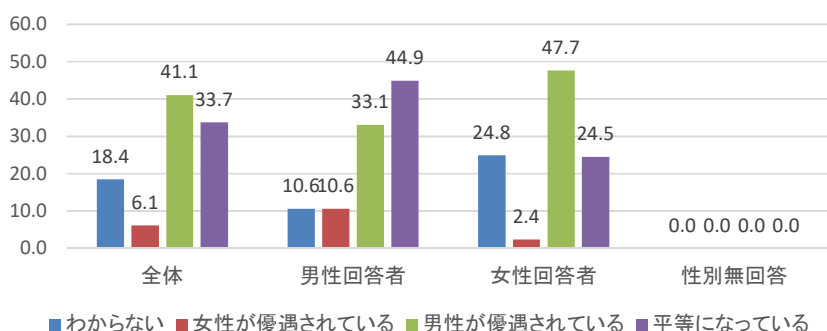
法律や制度上での男女の地位【R8調査】(%)



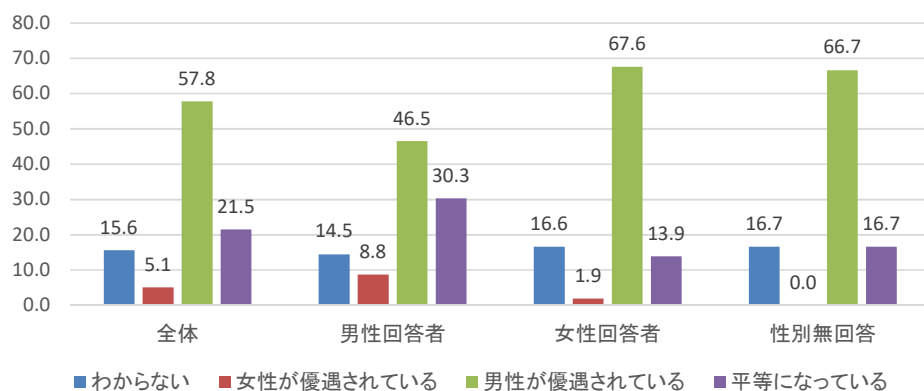
男女別では、男性の49.6%が「平等となっている」と回答し、「男性が優遇」18.0%を大きく上回っている。
 ≪H18年度調査時と比較≫
 「平等となっている」回答の割合が高くなっている(H18:44.9%⇒R8:49.6%)
 「男性が優遇」回答の割合が低くなっている(H18:33.1%⇒R8:18.0%)

また、女性の39.0%が「男性が優遇」と回答し、「平等となっている」24.3%を上回っている。
 ≪H18年度調査時と比較≫
 「平等となっている」回答の割合は、ほぼ変わらず(H18:24.5%⇒R8:24.3%)
 「男性が優遇」回答の割合が低くなっている(H18:47.7%⇒R8:39.0%)

法律や制度上での男女の地位【H18調査】(%)



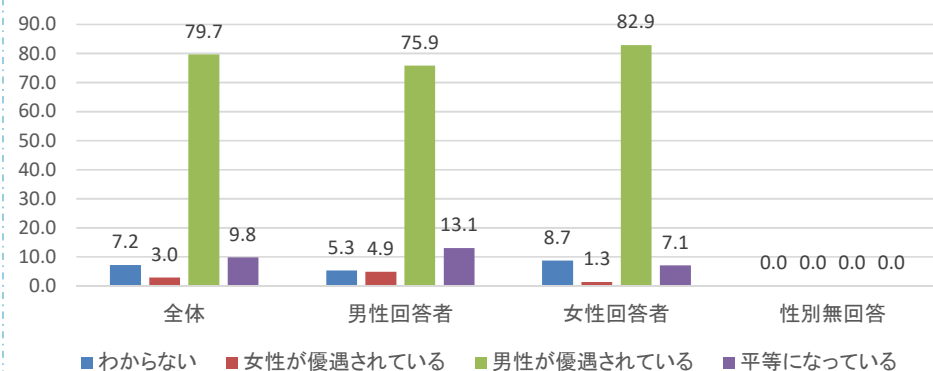
社会通念・慣習・しきたりの中の男女の地位
【R8調査】（％）



男女別では、男性の46.5%が「男性が優遇」と回答し、「平等になっている」30.3%を上回っている。
 ≪H18年度調査時と比較≫
 「平等となっている」回答の割合が高くなっている（H18:13.1%⇒R8:30.3%）
 「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:75.9%⇒R8:46.5%）

また、女性の67.6%が「男性が優遇」と回答し、「平等となっている」13.9%を大きく上回っている。
 ≪H18年度調査時と比較≫
 「平等となっている」回答の割合が高くなり（H18:7.1%⇒R8:13.9%）
 「男性が優遇」回答の割合が低くなっている（H18:82.9%⇒R8:67.6%）

社会通念・慣習・しきたりの中の男女の地位
【H18調査】（％）



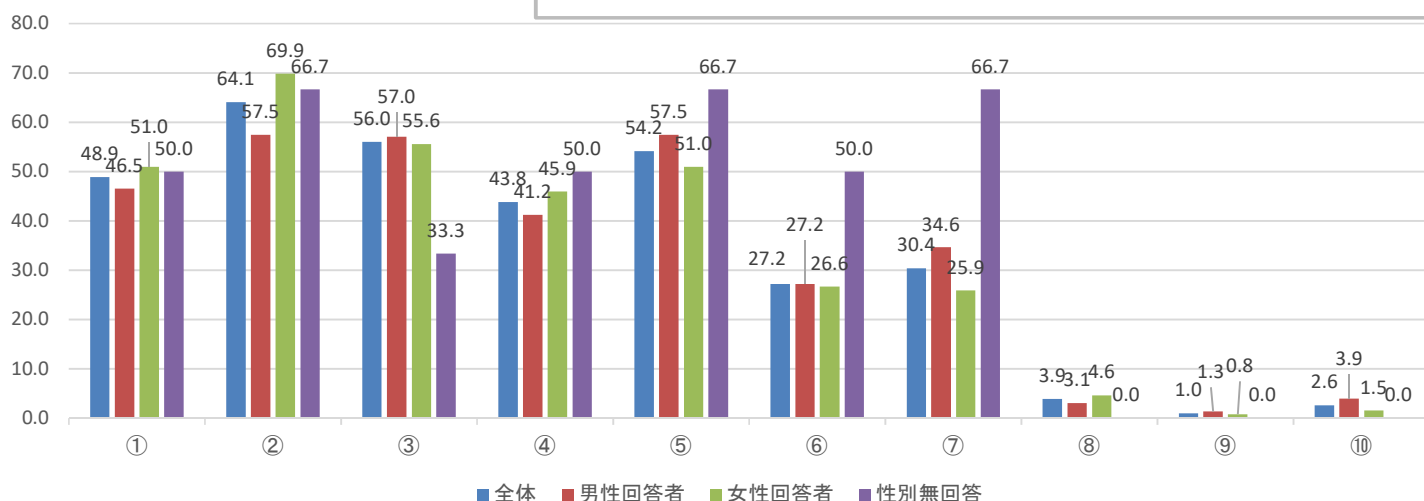
男女共同参画について、あなたの考えをお聞かせください。【14】～【20】

【14】男女がともに、家事・育児・介護・地域活動に参加していくために必要なことは何だと思いますか。
(複数回答可)

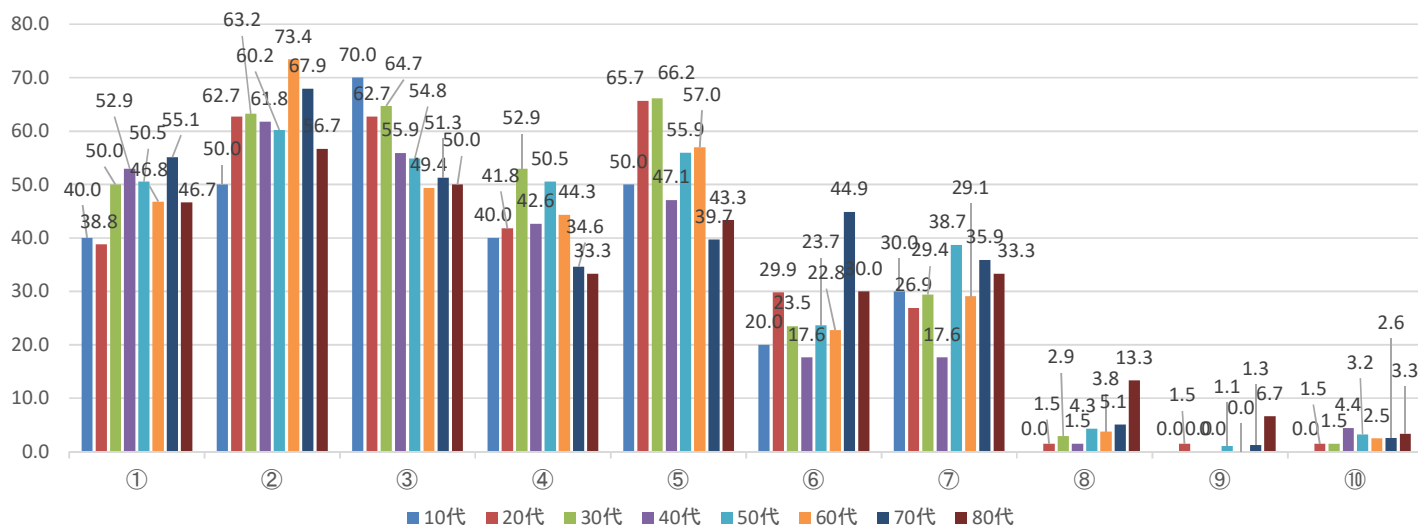
- ①社会の中で、家事などに参加することへの評価を高める
- ②性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育
- ③夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る
- ④職場の上司や周囲の理解を進めるための啓発や情報提供
- ⑤労働時間短縮や休暇制度を充実させ、制度の利用促進を図る
- ⑥行政機関が研修・講座などを開催し、家事や子育て、介護などの技能を高める
- ⑦家庭や地域活動と仕事の両立等の問題について、相談しやすい窓口の設置
- ⑧わからない
- ⑨無回答
- ⑩その他

「男女がともに、家事・育児・介護・地域活動に参加していくために必要なこと」として、最も高かったのは、「性別に関わらず家事などに参加する意識を持たせるような教育」64.1%と最も高く、以下「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」56.0%。「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、制度の利用促進を図る」54.2%、「社会の中で、家事などに参加することへの評価を高める」48.9%、「職場の上司や周囲の理解を進めるための啓発や情報提供」43.8%、「家庭や地域活動と仕事の両立等の問題について、相談しやすい窓口の設置」30.4%となっている。

男女別(%)



年代別(%)



(その他の意見)

介護福祉の仕組みが分かりにくい。職員のレベルにもよるが、相談内容の理解が足りない。対応力のあるスペシャリストを数名配置して職員の質を上げた方がいい。

あまりにも休みが多すぎる

思いやりの心を育む教育

各個人が意識をかえること

家事、育児、介護、地域活動を支援するコミュニティの充実

家庭の中で家事等の教育をしっかりとやる

男女性ができる物を話し合いにする

男女が共にやるのが当たり前という意識。また、会社や社会で助け合うのが当たり前という意識が必要。

女性天皇を願う（愛子様）

子育て等しやすい環境を確立するための法律・制度・中核施設等の設置

休暇等の制度利用は進んでいるものの、業務を代行する上司、同僚等へのケアや手当が無視されているため、結果として取得する側の負い目にもなり易い。

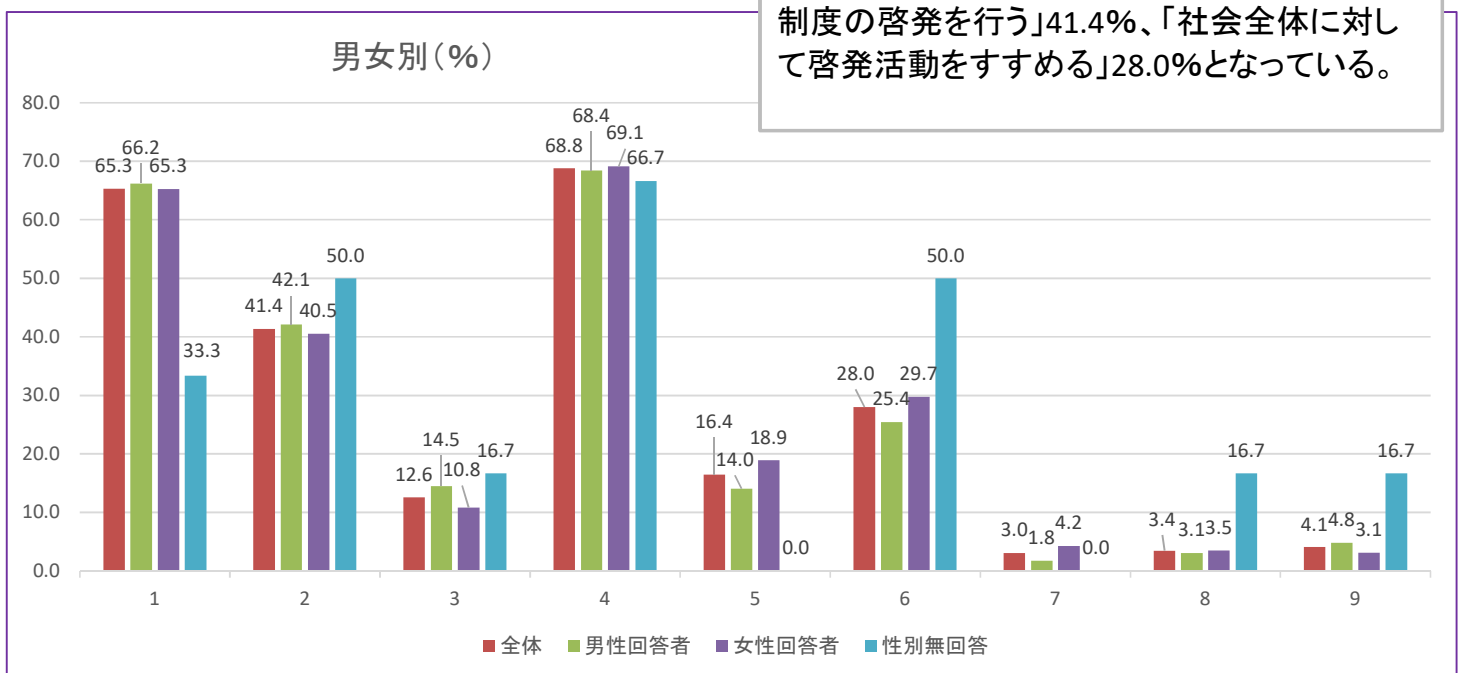
性別による優遇を廃止する（大学の女子枠等）

女性への配慮も必要だが、加えて、女性へ配慮されているが男性には当てはまらないもの（服装など）についても取り組むこと。それで初めて、お互いの配慮が進むと思う。

【15】育児や介護休業（休暇）を取得できる制度があります。男性がこの制度を利用するには、どのようにしたらよいと思いますか。最大3つまで選んでください。

- ①休業取得者に対し、経済的な保障をする
- ②企業等に対し、制度の啓発を行う
- ③男性に対し、制度の啓発を行う
- ④制度の利用者が、職場で不利益を受けないよう職場の雰囲気づくりをする
- ⑤男性に、家族に対する責任感をもってもらう
- ⑥社会全体に対して啓発活動をすすめる
- ⑦わからない
- ⑧無回答
- ⑨その他

男性が、育児や介護休業（休暇）制度を利用するために必要なこととして、「制度の利用者が、職場で不利益を受けないよう職場の雰囲気づくりをする」68.8%、以下「休業取得者に対し、経済的な保障をする」65.3%、「企業等に対し、制度の啓発を行う」41.4%、「社会全体に対して啓発活動をすすめる」28.0%となっている。



(その他の意見)

制度の利用者がいても職場の仲間に不利益が生じない体制が必要、こうした制度の利用しがたい理由はどれも経済的な不安と職場の仲間への申し訳なさが要因だと思う。

企業に対し取得の報奨制度を設ける

業務の引き継ぎがしやすい環境作り

取得した人に不利な扱いをした企業に対する厳格な罰則

企業努力ではなく法律化しないと解決しないと思います。制度利用者の収入が減るのは当然ですが人員が減ることで苦しむのは現場の人間です。そのため制度を利用できない、利用しにくい環境は変わらないまま

休暇取得後、昇進等の人事評価が不利にならない制度をつくる

休業者をカバーする人に対して手当など優遇措置をする

育児休業はいいと思うが、休んだら他の人の負担が増えてしまう。その人達には何かケアする制度があってもいいと思う。あってもほしい。

GDPが毎年30%上げたうえで、働く人の給料が毎年確実に30%以上上げて行くこと、国民の負担を4割から3割まで減らすことが育児介護にもつながっていく。

その立場にならないとわからない

いらないと思います。男性が弱くなる一方です。

全員が取得できるようにする

女性に職場に対する責任感を理解してもらう

育休中フォローする人に対しての待遇の改善

休業をサポートしている職場にサポート（支援）する

大人が子供に対して関心をもつ

納得できる理由が発せればそれでいいのでは。

ワークシェアの普及などによる労働力の確保。休業による欠損がでても代替があるしくみが必要

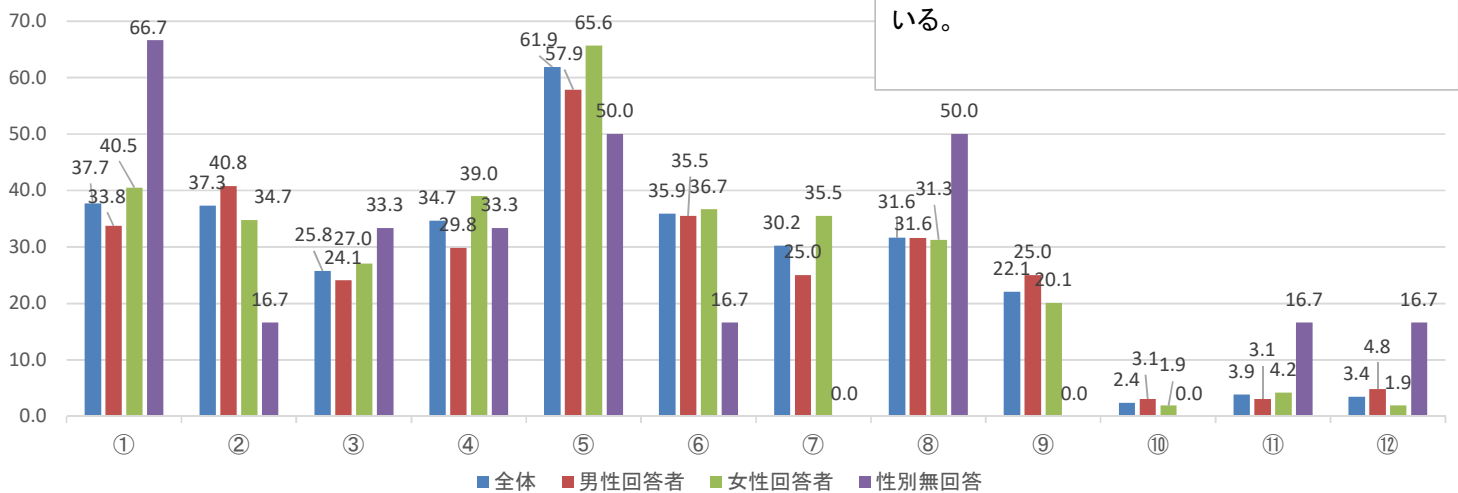
【16】男女が各自の能力を発揮して、生き生きと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

- ①同じ価値の労働は、社員もパートも同じ賃金にする
- ②労働時間を短くして、男女が地域や家庭との関わりができるようにする
- ③女性をもっと職場の意思決定に参画させる
- ④補助的な仕事を女性だけにさせるなどの性別での役割分担をなくす
- ⑤出産・育児・介護休暇を男女ともとりやすくする
- ⑥職場でハラスメント防止の人権教育をしっかりとる
- ⑦セクハラなどを安心して訴えることのできる相談窓口をつくる
- ⑧昇給・昇格の男女格差を無くすために、教育を受けられるような支援を行う
- ⑨企業や学校で、男女共同参画の啓発事業を行う
- ⑩わからない
- ⑪無回答
- ⑫その他

男女が各自の能力を発揮して、生き生きと働くために必要と思われることについての回答で、最も高かったのは、「出産・育児・介護休暇を男女ともとりやすくする」61.9%、以下「同じ価値の労働は、社員もパートも同じ賃金にする」37.7%、「労働時間を短くして、男女が地域や家庭との関わりができるようにする」37.3%、「職場でハラスメント防止の人権教育をしっかりとる」35.9%、「補助的な仕事を女性だけにさせるなどの性別での役割分担をなくす」34.7%、「昇給・昇格の男女格差を無くすために、教育を受けられるような支援を行う」31.6%となっている。

男女別では、男性回答者で、最も高かったのは、「出産・育児・介護休暇を男女ともとりやすくする」57.9%、次いで「労働時間を短くして、男女が地域や家庭との関わりができるようにする」40.8%、「職場でハラスメント防止の人権教育をしっかりとる」35.5%となっている。女性回答者で、最も高かったのは、「出産・育児・介護休暇を男女ともとりやすくする」65.6%、次いで「同じ価値の労働は、社員もパートも同じ賃金にする」40.5%、「補助的な仕事を女性だけにさせるなどの性別での役割分担をなくす」39.0%となっている。

男女別(%)



(その他の意見)

多くの中小企業では、休業はないようなものです

そもそも体の造りが違うのだから役割分担を失くすのではなく、明確に分けて区別は行うべきではないかと思う

育児休暇制度については範囲の拡大が必要と史料する。未成年(18才迄)は一人で医療機関に通院できない。発熱や予防接種等、年数回発生する。さらに子供の数だけ増えるため。

残業というものを無くす。物価を下げる。給料を上げる。

はけんの廃止

働きたくてたまらない人が上限関係なく働けるシステム(強制でなくその人の意思)同一労働同一資金の廃止、未払い賃金の企業が あった場合、政府がしっかり調査し、悪質な場合は高額な罰金の徴収を行う。

出産や介護を要する男女について主要な業務や充足が足りていない部署に配置させない制度を設ける

昇任・昇給の格差を無くす。

インターンシップによる体験の機会を増やす。

言ったもの勝ちの図式を排除する制度の検討

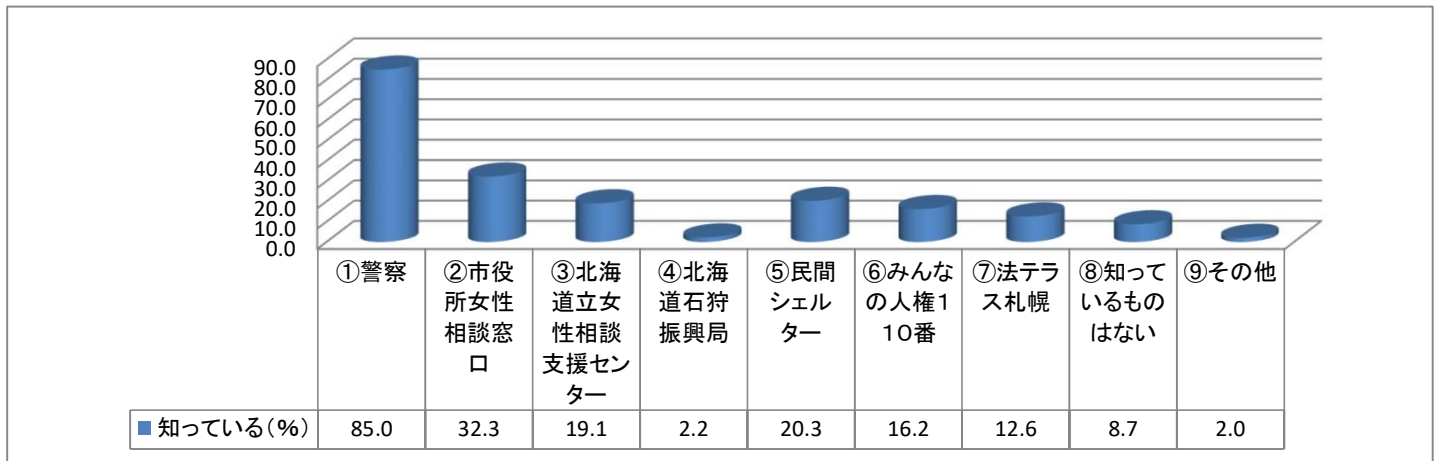
仕事量に見合った給料を与える

企業が子育てに対して配慮がなく、必然的に子供のことは女がやるべきという風潮になっているのでまず企業から考えを変えるべき

男女という括りではなく個々の括りの問題ではないか

配偶者というだけで控除されるような税制度の廃止、父子家庭が母子家庭と同様に手厚く支持されるしくみづくり。もしくは母子家庭への支援の見直し。

【17】配偶者やパートナーからの暴力（DV）を相談できる窓口があります。知っているものすべてを選択してください。



（その他の回答）

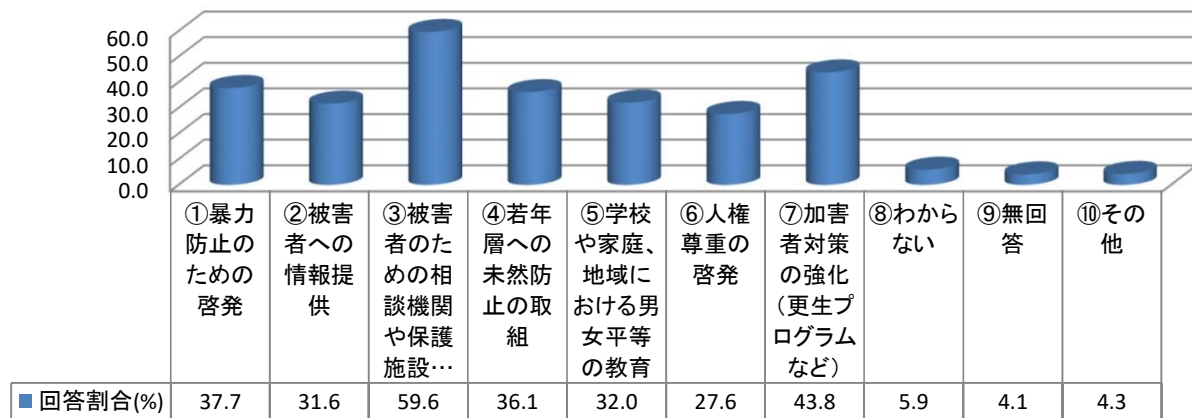
職場の相談場

警察は事件にならないと知らんふりだと感じる

無回答

相談窓口の認知度で、一番高いのは「警察」85.0%と9割近くの方が認知していますが、以下、「市役所女性相談窓口」32.3%、「民間シェルター」20.3%、「北海道立女性相談支援センター」19.1%・・・となっており、3割以下の認知度となっている。（引き続き周知、継続をしていく必要がある）

【18】DVを防ぐために必要な取組は何だと思いますか。（複数回答可）

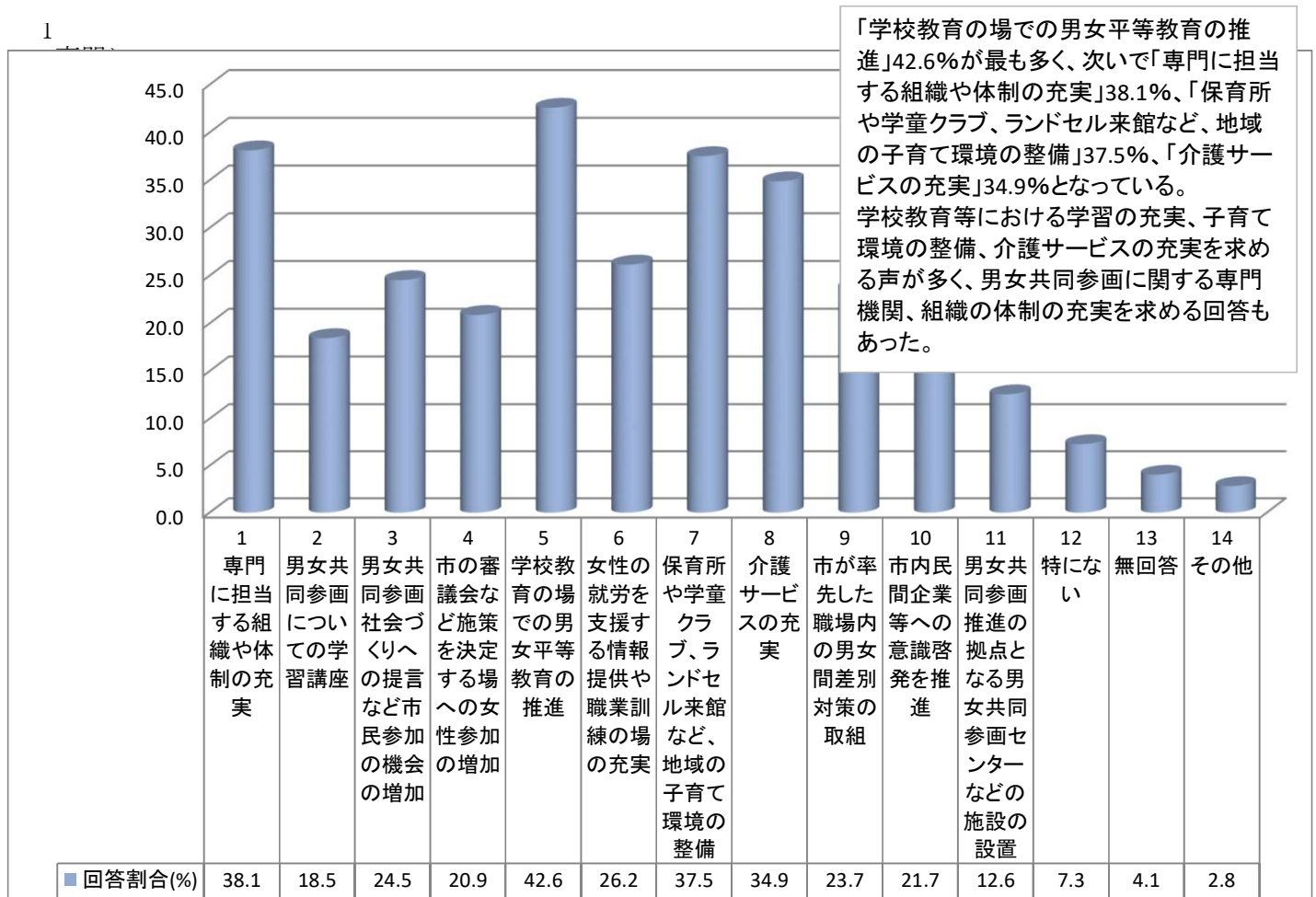


（その他の回答）

人は変わらないので防げません
罪を重くする
加害者には厳罰な刑が必要だと思う。
加害者の厳罰化
厳罰化
ヒューマンエラーがないように※プライバシー等の保全
日々のコミュニケーション、相手への思いやり 被害にあってる人（ストーカー被害者等も）を警察の寮や使用していない施設等に一時的に身を寄せる。例えば施設等に行く場合等は定年退職した警察を常駐させるとか
今の若い者は我慢を知らない親の教育不足。
DV加害者への罰
防ぐのは難しいと思います。
取り返しのつかない事態の未然防止のための迅速な警察の介入
DVに関する小中高での教育、普及によりDVに関し防止意識を高める。 DVの認識が薄れていくから被害者が訴えられない、法律で裁けない等細かくて助け出すことができないからすぐ助けて上げられる法
虐待防止のための取り組み
DVする奴は周囲の取組とか関係なくやらかす。やらかす（した）奴をどう制するか
加害者に対する社会的制裁ではなく公的な厳罰の制度化 最も重要なのは一義的な家庭、学校教育、本質的に防止すべきはDVではなく暴力行為そのもの。徳操教育の不良であるにも関わらず、肝心の大人世代が無知、無関心かつ情緒のコントロールが不得手。
男女共同参画とDVは切り離して議論する方がいい。
SNS活用

【19】男女共同参画社会を実現するために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答可）

1



(その他の回答)

いま以上に平等にしようとして女性の立場を上げようとするれば今度は女尊男卑になり男性からの理解者は減っていくと思う。
男女、それぞれの特性を活かした社会環境作り。男性にしかできない事、女性にしかできない事を認めるべき。
男女が集う場をつくる
男女共同参画社会実現を目指す、シンボルの建設
権利の共有以上に、義務ややるべき事の共有
市では限界があると思う。国単位で考えていかないと変わらないです。
差別と区別の明確化
市や、自治体の補助や支援が増えるといい

【20】男女平等、男女共同参画に関しての考えや意見などがあれば、お書きください。

会社に男女平等の風土があるか。欠員が出ても余裕があれば、介護休暇や育児休業を取得できる。余裕がなければ特に男性は取得不可能。取得している人がいないから、その慣習がない。
一部の声の大きい女性の声を聞いた結果、大多数の女性が生きづらくなる結果を生み出すならやらない方がいい。
1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから約40年経ちますが、男女差別は十分に解消されていないと感じます。私の職場でも男性優位の構造は残っており、前職でも同様でした。自治体の取組も重要ですが、国レベルでの制度・教育の見直しがあれば、社会の根本的な変化は難しいと思います。
自分は学生ですが、育休が取れないような企業には入社したくないです。育休取得がしやすいようなまちにしてほしいです。
義務教育の中で教えてほしい
男性女性それぞれの特性特徴を認めた上で平等を考えるべき。男女平等ありきだとどちら側にも良い結果にならない。
男女平等は確実に進んでいると思う。なので必要以上にそこにお金、税金を使用しないでほしい。
市職員の男女比率、各催物の参加者の男女比などの情報を公開して、積極的に市からジェンダーイコールをアピールすべき
男性が育児休暇を取得しても、家事・育児を手伝わない人もと聞く。その確認も必要だと思う。男性が育児休暇所得の権利だけを主張し休んでも、女性がさらに苦しむのであれば意味がないと思う。
子供の頃からの家庭環境や親の価値観、学校生活での先生や友達との関わり方で大人になった時の考え方が決まるので、小さいうちからの教育が必要だと思います
「男性は仕事、女性は家庭」という固定観念がある限り、男女平等は不可能です。若年層からの家庭と学校の教育すら事での世代の男女平等の固定観念は変わらと思う
「共同参画」に行こうと思える様な体制づくり
昔よりは参画しやすい社会になっていると思う。
平等と呼ぶにはまだまだ課題が山積みで取り組むべき事があると思いました。
行政からの啓発、学校教育
センターなどで集える施設、男女共に持っている知識など互いに交換できるチャンスがあれば良いと思っています。
町を活性化させるとりくみを考えてほしい。千歳市民で良かったと思える制度や社会になれば若者の考えもかわる
企業、学校での男女共同参画啓発事業の更なる促進に尽きる。

私が現在在籍している職場では、専門部署、対応者があいまいで女性の立場が低いと感じる事柄が多い。国、地方自治体が法整備（企業に対して）の強化がもっと必要と感じる。
男女ともに安心して、子育てできるような社会づくりに力をいれてほしい。
私は70代なので、若い世代を見ているとずいぶん男女平等の意識は進んできていると思う。残念なことに60-70代以上の男性の意識改革は進まず、戦前のような感覚をお持ちの男性も少なくない。うちの夫も含め。教育の大切さを感じる。小さいころから性別の違いはないという教育がLGBTQを含め、またDVなどは絶対にやってはいけないと人権意識を自然に持つ大人を育てることになる。窓口を増やすことではなく、教育を柱にした取組をやっていくことだと思う。このような形で市民の意見を求める事は良いと思うし、また様々な会議に市民、特に女性を巻き込んで取り組んでほしい。
身近に子供が5人いながら仕事をしている人がいます。子供の発熱とかで仕事を休まなければいけない時があつて、それに対してまだ理解しようとしらない人がいる事はとても残念。学校でも職場でもお互いが相手の立場になって行動したり、考えたりすることが大切だと思います。SNSなど見ても悪意のある言動が多いと感じます。
最近小さい時より平等と云われていますが考え方間違っただけ多く見うけられてます。自分の意志で参加難しい問題ですね。
適材適所が有効だと考える
仕事や、家事において男だからこれをやる、女だからこれをやると言った考えを撤廃するために上の世代の方の理解を得る必要があると思う
男性・女性そもそも筋の量や妊娠・出産と身体作りが違うので仕事で全く同じは不可能だと思う。大切なのは他人から見てよりも自分自身が平等であると感じていること。仕事でも働き方を尊重してくれる体制づくりが必要。
私は簡単なゲームなどからはじめ、楽しく過ごせる場をつくること。私は10年ほどカラオケをして来たので余り男女関係は考えない。
男女平等だけでなく経済的支援や人権の平等が必要。男女の給与格差をなくす。
男社会で女性が生き抜くのは何かを犠牲にしている。出産子育てを優先すれば後輩に昇給をぬかされる。子育てしてる最中、他の人は仕事を頑張ってたと言われれば何も言えない。子供はかわいいし旦那も一緒に子育てしてるが、ふとした時色々考える。平等ではなく公平な社会も必要なのではないかと。
女性が仕事につこうとすると、社員ではなくパートになる傾向があると思う。社員で雇ってもらいやすくしてほしい
色々な人がいることに対して理解を得ることで（助けてくれる話せる場所があれば）充分。人不足なのに配慮が多すぎて行政も大変だと思う。覚えることも増えて気の毒です。うちの子は障害があるが、たくましく生きています。
男女平等になるのは、難しいと思います。男性は子供を産むことはできないし何をもって平等としているのか悩む所ですが人として人間として男女関係なく助けてあげて行ける社会になればと思います。
体の造りが違うので、完全な平等は難しいが、制度や法律では平等を求めるべき。子育てがしやすくなれば、共同参画もしやすくなる。
男性と女性は脳のシステム、体のしくみ、性別の役割いろいろな違いがある。この違いを1直線にしてまるっきり平等とはいかない。女性が出産すると、産前産後育児と大きな負担がかかり、若者たちは経済的な問題を抱え、少子化の一途をただっている。子供は3歳まで母親と過ごすのが一番。子供一人で年200万程度助成金がもらえるようにするとゆったり子育てできると思う。子育てのブランクがあっても社会復帰できればいいと思う

男女平等、男女共同参画に対する社会、企業の取組のようを広く周知し、YouTube等を活用して理解を深めていく。
男女平等、男女共同参画を改めて啓発しなければならない現状に問題があるのかもしれない。基本は平等であるが言葉で現すことで更にこれを強調しないのかと思う。差別は不要、教育も義務教育からしっかりするべきである。男女と区別するのは年齢層の高い人々であり、いずれその世代が少なくなるとこの流れは変化すると思う。
まず政治の場面にクォーター制度を導入してほしい。非正規な労働者に女性が多い事をふまえて、正規、非正規の給料を同じにしてほしい。市役所でまずできることは期限付職員を減らす事。男女平等、共同参画に関しては子供時代からの教育が必要。夫婦別姓も必要。
昭和生まれの私ですが男性は仕事、女性は家事に努めると言った考えが一般的な思考でしたが、今の時代はその考えが古くなっているのではないかと。ただ余りにお互いが仕事に傾注すると子供は不登校になったり生活のバランスが保持できなくなったりと問題もでてくるのではないかと。ライフバランスを保ち、お互いが協力し合い生活できる態勢を確保する。仕事場の理解も必要と思われる。
昭和生まれの人が多くいる中での改革は簡単にはいかないと思うので若い人を支えての交流はすごく大事だと思います。これからも機会があれば参加したいです。
男女共に長時間労働をしなければ実家暮らし前提の給与しかもらえない仕事が多すぎる。体力的にそれが難しい女性は一人暮らしがなかなかできない。経済的な理由から結婚を考える女性が増え男性が外で稼いで女性は働きながら家事のほとんどを担うパターンが多いと考えられる。そんな親を見ながら育った子どもの中には男女の性差のステレオタイプがすりこまれ、いつまでも古い性役割分担のイメージがなくならないのではないかと。すりこみに基づく無意識の男女差別が世間にはびこっている限り男女平等は実現しない。教育も大事だが政治家や重要な事柄を決定する局面で男性・女性のバランスが半々になるか女性が多い時もあるのが当たり前になって初めて男女平等が実現したと言えると思う。
男性女性にかかわらず生きやすい世の中になってほしいです
日本は原理原則女性母国、女性を大切にする国です。基づいて日本民族として男は女を守り、女は子を産み育む役割がある。そのことを大切にし国民が心の豊かさと生きる幸を感じられる国を守っていきたいと感じている。行政の方々頑張ってください。頑張ってください。千歳は良好な市です。
同性愛への容認
女性の生理休暇の理解の旗の下、男性管理職に下腹に電気をあてて疑似体験をすることを良しとしている東京都の手法を千歳市は取らないでほしい。女性の権利の旗印の下、生身の人間の体へ直接物理的苦痛を与えるなんて人のすることじゃない。生理痛は個人差があり物理的にその痛みを作り出すことはムリ。女性の権利の主張としてこれは行き過ぎだ。女性らしく男性らしくというのもひとつの個性です。
完全な男女平等は遠い道のりかと思う。各企業がもう少し子育てや女性の体（生理や妊娠）のことに理解を示し、男性が仕事を抜けられやすい環境が必要。女性ばかりが頭を下げて早退などをし子供に関わっており諦めることが多くある。仕事に関しても男性優遇が多く見られ、女性のキャリア育成が進んでいないように思うため、子供ができて働きやすい会社、男性も女性も同じ様に扱われる未来が来ることを願っている。いろんな市を渡り歩いています千歳市の環境はとてもすばらしい。様々なことに理解があり、子育てのしやすい街だと思う。この市に来てよかったです。市役所もいつも親切で丁寧、今までに感じたことのない対応です。この場を借りてお礼申し上げます。
自分の身近にいない為実感がないが、自分の子供がもし性別マイノリティだったら？どこまで理解したり応援できるか不安に思う。言葉は聞いたことがあるが意味は分かっていない。もっと知りたい、理解したいと思うので、より身近に学べる機会があったらいいと思う。
未だ職場では男性の育児への積極的参加に疑問を持たれることがある。悲しいがわからなくは無い。しかし、個々の経済状況など見えない部分により各家庭の形があると思うので、分かって欲しい。
学習講座の実施 市民が多数参加しやすいように平日、土日等を実施するように希望します。
思いやりの気持ち

かつて男女平等参画の一環として埼玉県嵐山に研修に参加させて頂きました。とても有意義な体験でした。今後男女共に研修する機会があれば良いと思います。老若男女に学びの機会を提供して頂けたらと思います。
男女平等はこの先も難しいと思う。共働きしても家に帰ってから家事をするのはほぼ女性。男性は外で仕事、女性は家事、育児をするということが現代社会においてもあって、男性の育児参加を遅らせており、国会、会社などの女性進出を遅らせていると思います。長年こうしたことがあるのに簡単ではない。テレビでも男性の家族サービスなどと言っています。当たり前のことをなぜサービスと言うのでしょうか。男女平等は遠いと思う。
男性と女性という考え方は平等でいいと思います。今はそのような時代ではないと思います。能力のある人は男性であれ女性であれみとめる事が大切だと思います。市に一言。病院と介護の方にもう少し力を入れてほしいです。
どんどん進めて貰いたい制度です。
平等は、同じとは違うと思います。なんでもかんでも平等だから対等に男性、女性という括りで分けることは無理でしょう
男女において社会全体に根付いた偏見や昔から日本にある考え方を変えていくことは厳しいと思う。現時点でそのような土台の差があることを理解したうえで男女が共同していける社会をつくる必要があると思う。妊娠、出産、育児など女性にどうしても負担が偏ってしまうことは、キャリア形成にも大きく影響してしまう。平等だけではなく、公平の視点を重視して土台が異なっても状況に応じて支援を調整していくアプローチが必要。
様々な役職の男女の人数を等しくするなど、数・量的な解決策だけでなく男女間の相互理解を促す策が必要と感じる。男性でも女性の視点から物事を考えられるようになったり、その逆も大切。よく育児のことが男女平等とか男女参画であげられるが、大人の子供への関心のなさの問題が多く含まれる気がする。子供への支援に力を入れるのがよいと思う。
60歳代の私からすると昔はお母さんが家の事や子供の事を殆ど行っていました。今はパパが抱っこ紐で赤ちゃんを抱く事は当たり前になっています、病院にもお父さんが子供を連れて来ている様子も見られる様になりましたこれだけでも男女平等になってきたのではないのでしょうか後は本人を取り巻く環境によります
男女平等、格差は昔に比べだいぶ進んでいるので、時代の流れとともに良くなっていくと思いますが、若年層への教育、意識づけは必要だと思う。その反面ハラスメント、いじめと増えている昨今、社会、学校での人間関係は一言一言気を付けなければならないので、これもまた難しい時代だと感じる。女性に限らず、やる気のある人、頑張っている人、が活躍できる社会であってほしいと思う。
日本はすでに充分男女平等で性的少数への差別のない社会になっていると思う。日本ほど差別のない国はないでしょう。行き過ぎた男女平等や性的少数者への配慮は反って社会の不安を招きます。男女共同参画に使う予算があるのなら、減税するなどしたほうがよりよい暮らしができるのではないのでしょうか。
男女平等について、目先だけを模索するだけでなく、0歳から100歳の人生を分析して欲しい。男性と女性の整体環境で社会人になった時の行動範囲を単純に検証していると思う。現状時点では、何もかも共有している。メリット、デメリットを洗い出して、なぜ、話し合い（発言を批判しないように）をする事が大切です。男女共同参画について、現状時点では見た目は良いが、国の法律が良くない。結婚してお産し1年後保育所に預けて共働きを余儀なくさせることが問題ではないか。子どもを社会（高校卒業）に送りまで母親の義務教育、父親は責任を持って働くことが、子供が夫婦の背中を見て成長する。現状は、子供が親として見ていないため悲しい事件発生している。なぜここに目が向けてない、共働きで国に税金を納めることが優先している。上記の内容と同上で問題の洗い出しをすることが大切です。このままだと人と人との関係や環境等含め悪化していくと思う。常に状況の変化を模索する環境づくりを期待します。
古い考えかもしれませんが、全部が男女平等、男女共同参画はどうか？男性が出来て男性にできない事もあります平等ではないと思います。職場によっては違いがありますが？男女平等、男女共同参画は反対ではありませんが、「男性の問題」にしてほしくないかな。（力・体力は90%は男性だから）

今の民主主義社会、資本主義社会に於いては男女平等は無理だと思います。家事労働に価値がついていない上、芸術家に価値がついていないからです。要するにお金に換算できないからです。女性が社会に参加しても、子供が生まれると協力が得られないと中断せざるを得ません。家事、育児に価値を認められれば、社会参加しなくても男女平等となると思います。

声がデカいだけの意見に流されずに区別、差別、分別を間違えなければ良いだけだと思う。声がデカいだけの人はそこらへん解っていないので。

男女平等というより各個人の得意分野ややりたい事ができる社会であってほしい。そして互いの仕事を評価し、支えあえる事が当たり前になればよいと思う。男だから、女だからで各個人の特性が生かせないのはもったいない。

労働時間短縮はよく検討する必要があると思う。日本の大学、研究機関での研究力の劣化、企業での研究開発力、生産技術力の劣化が危惧されている。食料やエネルギーを輸入に依存している日本が競争力が弱くなるとどう生きていくかも大きな問題になる。労働時間短縮などは楽になる方向で良いだろうが、先に述べた観点からやって行けるのかも考慮する必要がある。参考までに日米の1人当りの年間平均労働時間 1990年と2024年では 日本が2031時間から1617時間（414時間減少）、米国が1878時間から1796時間（82時間減少）となっている。大企業などで海外と競合している部署の社員には、ハードな仕事で頑張ってもらう必要があります。米国では社会をリードしている人々は非常にハードな仕事をしている。市役所は実業の世界にうといと思いますが世界を相手に戦っている実業社会をサポートする努力も必要だと思います。

完全な社会的平等は、難しいのかもしれないが、家庭での女性の役割に対しても補助や、しえんがあったり、社会への復帰をしやすい支援があればいい！

今後を担う子供達へ男女平等とうの学校教育を推進する。又、家庭では古い風習や慣例等がまだ残っており、家庭にも男女平等の重要性を伝え学校教育とのギャップがないように推進する

このような意識調査をしてもなかなか意見が浸透されず取り入れないと思う。方向性として目指していけるとは思うますが、出来ればすべての面で前向きに1市民である私達にもわかるような方針を出してもらいたいと思います。突然のお願いで少し戸惑いました。質問に対しても少し理解しにくいものもありましたが、私なりに感じたことにチェックをさせて頂きました。

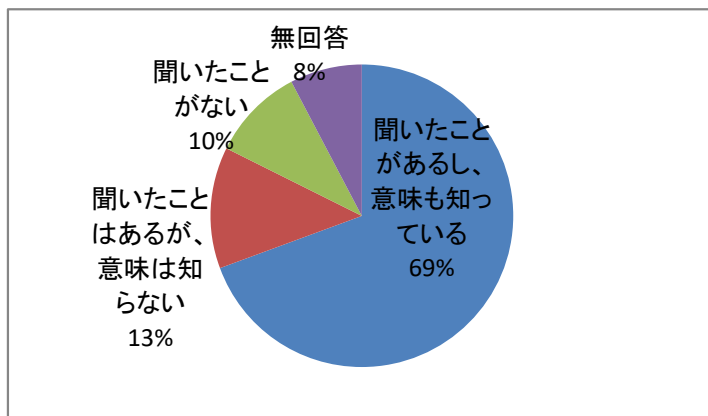
性別だけでなく国籍、人種、出身など様々な多様性を尊重し受け入れて共にすすむまちづくりを望みます。千歳市はそれがふさわしい街だと思います。新しいものを受け入れ世の中の動きや変化に柔軟に対応していくことで発展してきたこの街が素敵だと思います。市をあげて排他的な考え、雰囲気認めないことが男女共同参画社会へとつながっていくのではないのでしょうか。

男女共に尊敬しあう社会が必要だと思う。男性、女性共に特性が違うこと認め合うとすばらしい社会が出来ると思います。子供も一人の人間として、又障害があっても老人や社会的に弱い人も皆たのしく暮らせる社会のために学習講座を求めます。学校のイジメも大きな問題です。

《性の多様性についての設問（設問21～26）》

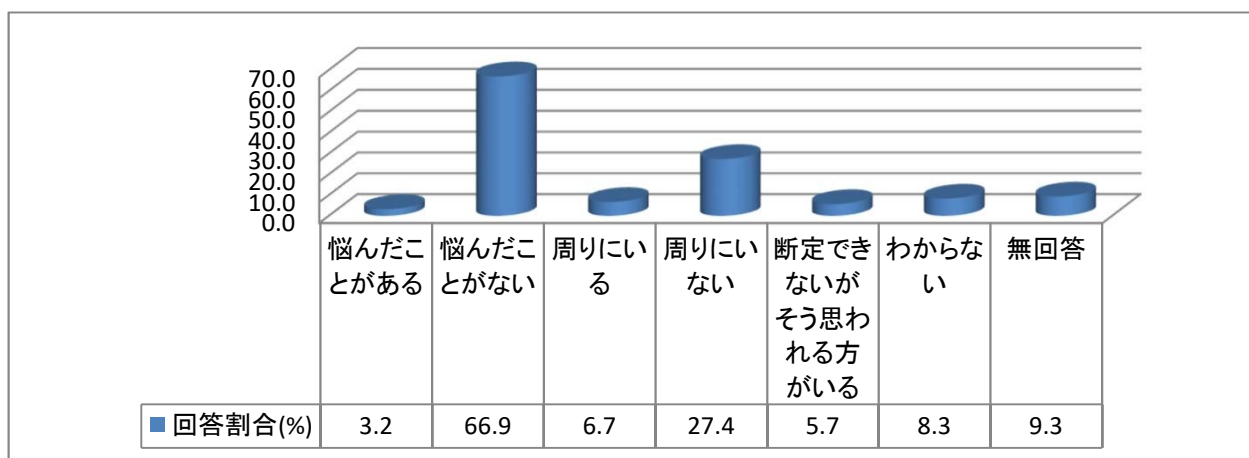
【21】「LGBTQ」（※1参照）という言葉聞いたことはありますか。また意味を知っていますか

聞いたことがあるし、意味も知っている	聞いたことはあるが、意味は知らない	聞いたことがない	無回答	計(人数)
342	64	49	38	493



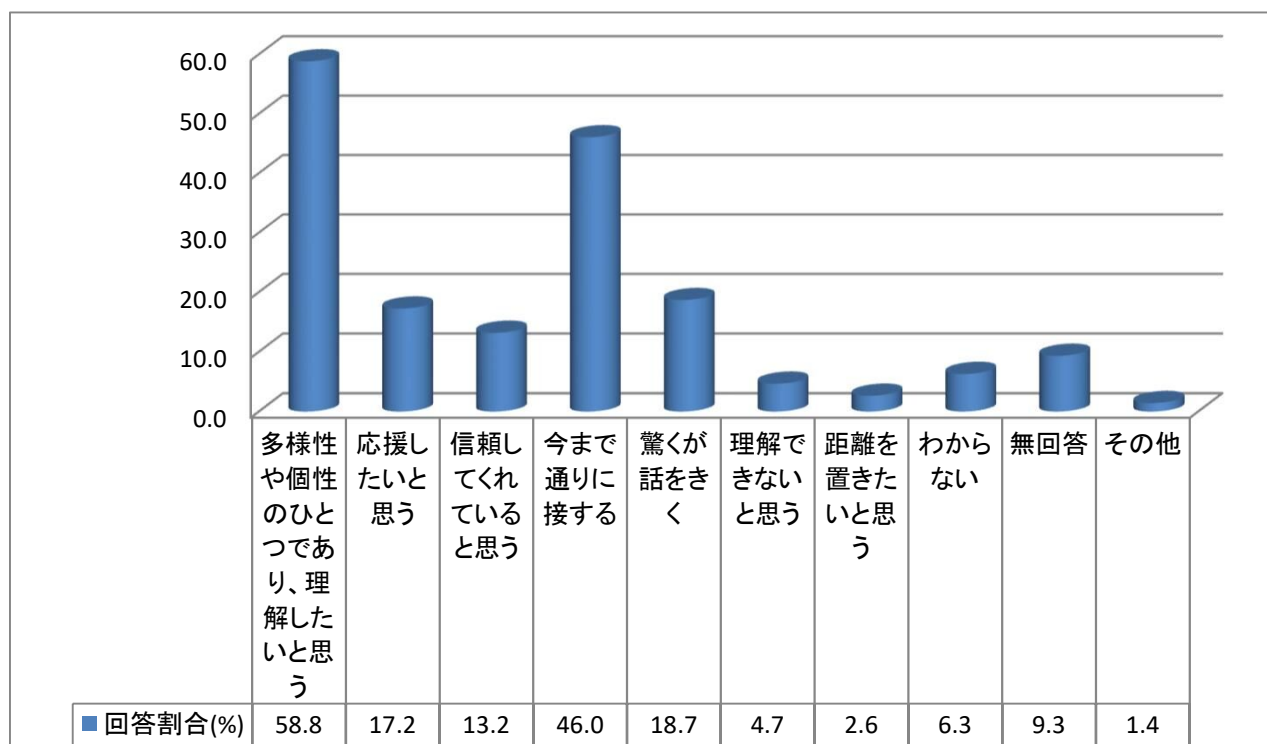
「聞いたことがあるし、意味も知っている」の回答者が約7割となっている。

【22】性的指向や性自認（※2参照）について悩んだことがありますか。また、周りで悩んでいる人はいますか。該当するものを選択してください。



「悩んだことがある」3.2%、「周りにいる」6.7%、「断定できないがそう思われる方がいる」5.7%とそれぞれ回答があり、性的マイノリティの方が存在する状況

【23】性的マイノリティ（LGBTQ、性的少数者。※3参照）について、どのようなイメージを持っていますか。また、身近な人から打ち明けられた時、あなたの気持ちに近いものはどれですか。（複数回答可）



「多様性や個性のひとつであり、理解したいと思う」の回答が最も多く58.8%となっており、次いで「今まで通りに接する」46.0%となっている。全体的に当事者のことを肯定的に受け止める回答が多く、否定的な回答は少数だった。

（その他の回答）

個人それぞれが好きなように生きられればいい。

理解したいと思うではなくて理解している。

普通に暮らしているのならいいが、権利を主張し、気に入らないと裁判を起し被害者づらし金をとろうとする奴がいるので一切支持しない。

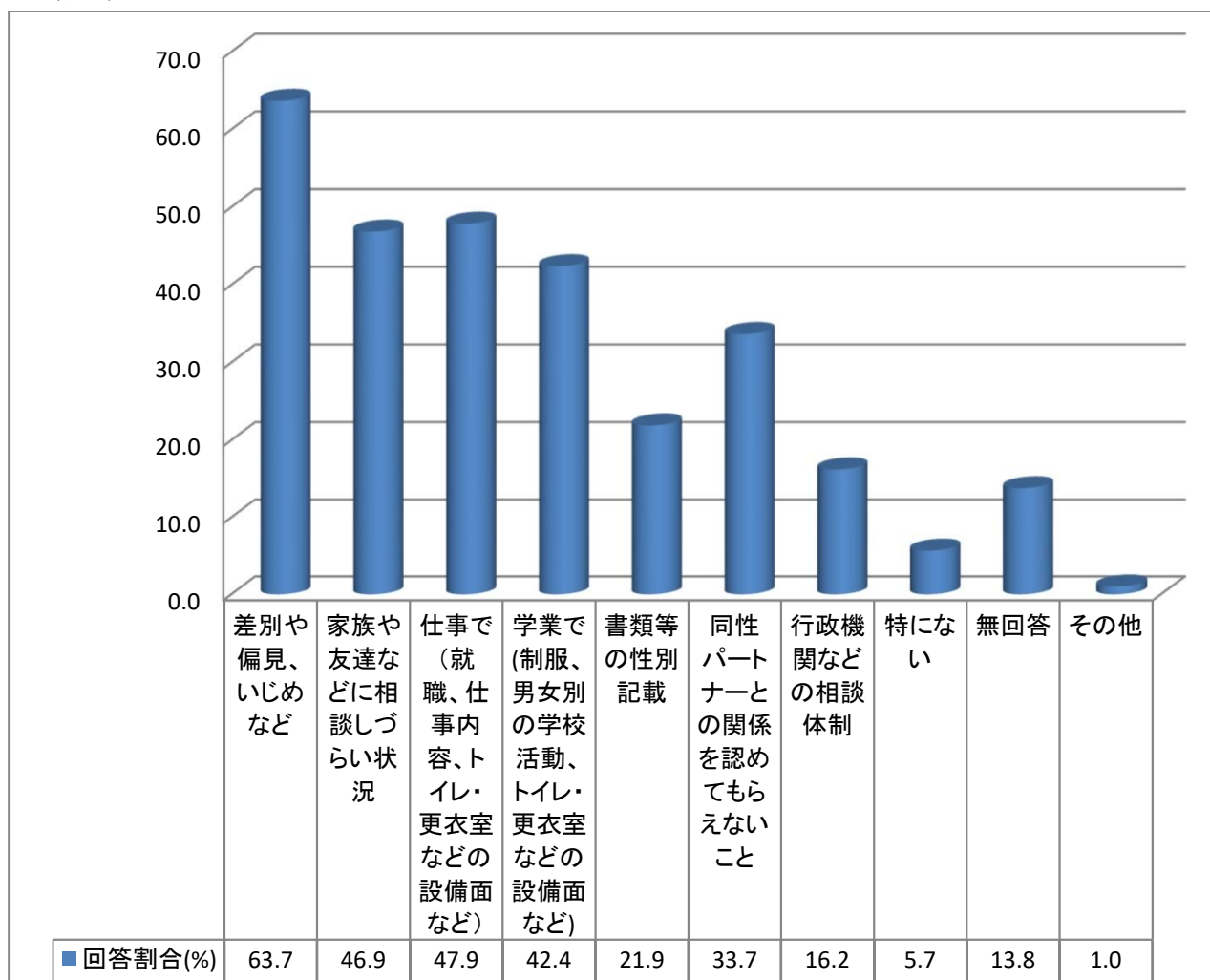
理解はあるが性的マイノリティの多様化による社会の混乱を危惧している

性別でなく、個として受け流す。その個を良しとして見てれば偏見もない

LGBTQの方々一人一人私達自身この方はこうなのとしっかり判断できるのはどれぐらいあるのかと自信はないのですが、偏見や差別しないようにする思いはあります。

その人の性格による

【24】 性的マイノリティの方が社会生活で直面している課題は何だと思いますか。 （複数回答可）



「差別や偏見、いじめなど」と回答した方が63.7%と最も高く、「仕事で（就職、仕事内容、トイレ・更衣室などの設備面 など）」47.9%、「家族や友達などに相談しづらい状況」46.9%、「学業で（制服、男女別の学校活動、トイレ・更衣室などの設備面 など）」42.4%、「同性パートナーとの関係を認めてもらえないこと」33.7%となっている。

（その他の回答）

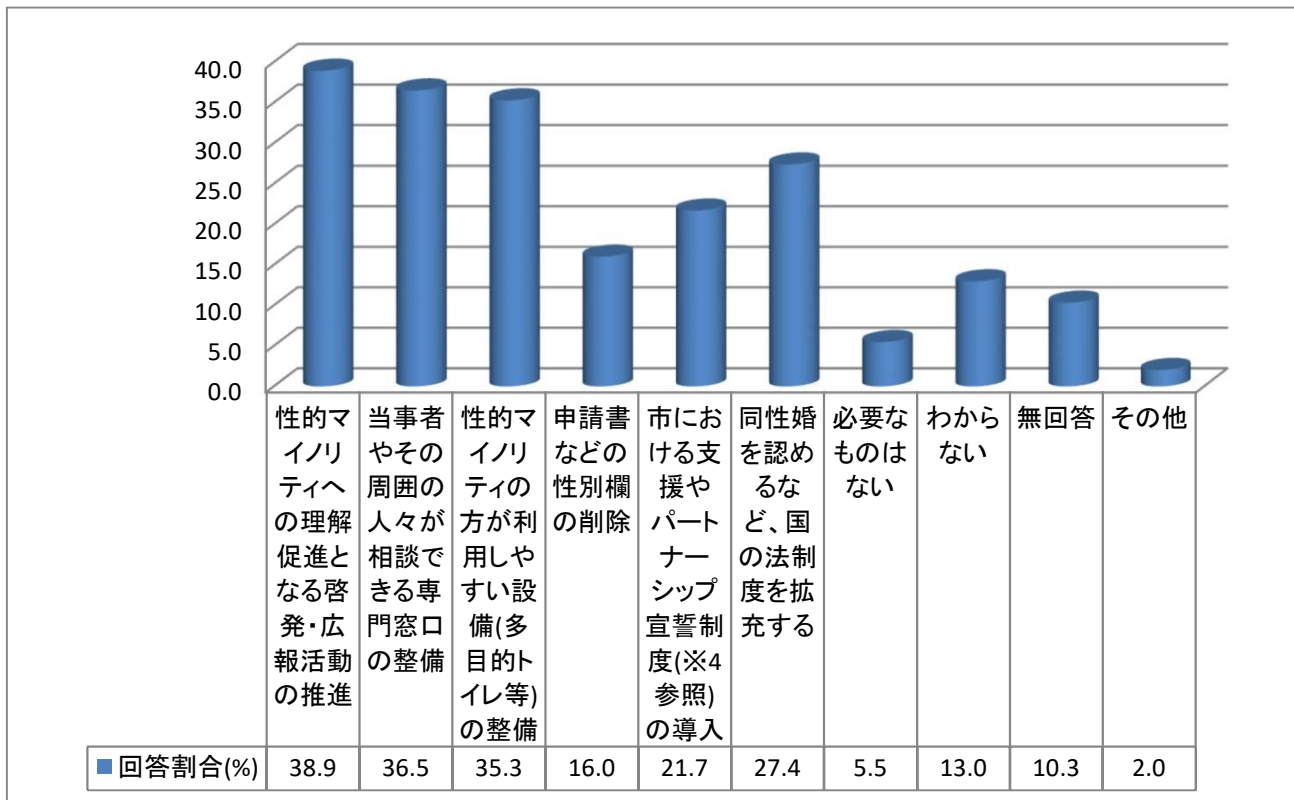
この質問もそうだし、いろんな所で取り上げられて問題視される事。

家族や友人が理解してくれていれば、社会的に認めてもらう必要はない。本人の気持ち次第。

理解されないだろうという不安→話しだせないこと

わからない

【25】性的マイノリティに対する理解の促進や支援に必要な取組は何だと思いますか。（複数回答可）：



「性的マイノリティへの理解促進となる啓発・広報活動の推進」38.9%、「当事者やその周囲の人々が相談できる専門窓口の整備」36.5%、「性的マイノリティの方が利用しやすい設備(多目的トイレ等)の整備」35.3%、「同性婚を認めるなど、国の法制度を拡充する」27.4%となっており、啓発・広報活動の推進が必要との回答が一番多く、相談体制の整備、設備の整備なども必要との回答もあった。

(その他の回答)

過去に当事者から聞いた発言ですが、促進とかどうでもいいからそっとしておいて、だそうで私自身もそう思いました。
国が認めなければ何もならないと思います。
まずはパートナーシップ制度の導入、他はその後。
とにかく知ってもらう活動
理解はするが公金を使ってすべきことではないと考えている。市政には他にも優先すべき対策があるはず。
支援は必要なく、男性女性の区別を無くせばいいのでは
家庭環境や教育が薄れている
静かに暮らしている人達はそのまましておく
マイノリティの方はそうでない人がどう思っているか知ってほしい。テレビだと差別や偏見があるってなっているけど本当か。いろんな意見があって、本当は皆がマイノリティなのでは。

【26】 自由記入欄

全員に当てはまるとは言えないが、知人は努力をして性転換をしていた。個人としては、前述とは別人に恋愛感情を抱かれたことがあり、全くいい印象を受けていない。一定の理解はするが、親しい関係になることはない。
男と女で違う生き物で平等に、同一化しようとせずに区別するべき。LGBT等、少数派はそっとしておいて上げるべき
性的マイノリティに関して、趣味嗜好は人それぞれなので、個人のすきにしたらいいと思う
同性婚を認めるなど、国の法制度の拡充を期待したいが千歳市も早くパートナーシップ宣誓制度を導入して、市民として当然のサービスを受けることができるようにしてほしい。北海道内で多くの市町村が導入しているのに、空港だラピダスだと一見進んだ環境の中にある千歳が未だに導入していないのは不可解！
千歳市も「パートナーシップ宣言制度」を導入するべきだと思います。
多様性の一つとして性的少数者を理解したいと思うし、例えば友人がそうだとでも理解はするが、社会的に認められるのは難しいと思う。なぜかという性的少数者のふりをした犯罪者もいるため子供を守ろうとする親の立場になると、判別が難しく思う。
日本人はもともとそんなに差別をしていないと思う。この問題も必要以上に盛り上げてお金、税金をかけないでほしい。認めるのも多様性であり、理解できない考えも多様性だと思う。そして多くの国民は性的マイノリティに興味関心をそこまで持っていないと思う。偽善だけの取り組みならやめてほしい。
公共の施設(入浴)等における利用のガイドラインを策定して欲しい。
正直、性別意識しすぎるのはかえって良くないのかなとも思います。性別を意識しすぎるが故に男性はこうあるべき、女性はこうあるべきだという考えをしてしまうと思う。性別どうのこうのいう前に私達は同じ人間なのだから、変に意識しなくても良いのではと思います。(ただ男性と女性では体力の違いなどがあるので、力仕事はどうしても男性がやることが多いなどは仕方ないかもしれませんが。)
人間として同じ立場だと思いますので、本人の意思で人生をすごせば良いと思います。
パートナーシップ宣誓は必要ないと思います。
私達の歳になると、男女平等やLGBTQについてより今後の介護や1人になった時の暮らし方を色々考えます
発信している方もいれば、そっとしておいて欲しい方もいると思う。受け取る側にもいろんな意見があると思う。簡単なことではないと思うが認め合っていこうという社会になっていけば良いなと思う。
パートナーシップ宣誓制度を早期に導入したほうが良い。
千歳もパートナーシップ宣誓制度を導入してほしい。自衛隊の町っていう感じで男は男という思いは強い気はしますが時代は多様性だと思います。
千歳市は全てにおいて遅れていると思うのでパートナー制度も導入してほしいです。
日本の人口の約5%のLGBTQの政策より、日本の人口95%が幸せになれる政策を考えるべきだと思う
LGBTQの人達が生きやすい世の中になってほしいです
物理学的に男で、心は女であるトランスジェンダーの人が女子トイレや女湯に入ることが可能となると、本来の女性の身の安全を確保できない。スポーツ大会も同じで本来の女性の権利が活用できない(体が男で心が女の人が優位)。性の多様性に力を入れすぎないことが重要。世の中原則として男と女です。
こちらの件は周りにも居ない為どう言っても良いかわからないが、当事者たちは大変な思いをしていると思う。時代は変化していくもの、多様性を理解しパートナーシップを尊重してもよいのでは。非常に難しいと思われませんが、一人一人の人権が大切にされ認め合える世界であれば皆が幸せなのかなと思う。
学習講座の実施を要望します。
やるべきことは山積している中、マイノリティのための施策は優先度低い。老朽インフラの整備などに予算をしっかりとつけるべき。
社会全体での理解が深まる中で、相談できない、いじめがあるなどの課題はある。そこに対して支援していく必要はあると思うが、多目的トイレなどを心の性別に合わせられるようにというのは、少し優遇されすぎと感じてしまう。その性をもって生まれたからには外見的な性別はあるのであって理解したいと思うがそこまで社会が働きかける必要はあるのか、と思ってしまう

LGBTQ断固反対！
生物学的区別を明確にする必要（性別欄の削除などもってのほか）性差の情報は差別のためではなく、実態把握のための基礎データ、健康リスクや犯罪被害等の分布も測定不能になるし、政策劣化の種になる。女性の安全を配慮する上でもトラブル、人権侵害リスクがある（不正も増える）女性を守るための区別も失われるおそれ。
男女平等という言葉が使われて何年になるでしょう。しかし本当の意味での完全な男女平等はまだ道半ばです家庭でも職場でも人々の意識の中でもまだ男女平等は遠く感じられる。やはり幼い頃からの教育が大切だと思う。一步ずつ進めるより他にないでしょう。千歳市がパートナーシップ宣誓制度を未だ導入していないということに驚きました。でもこのアンケートがその布石となることと思います。令和8年に導入されることを期待する
男女平等、LGBTのみではなく市民全員にやさしい千歳市であってほしい。自分が60代になって買物、交通機関、病院に対しても大変さがわかりました。私達の子世代である30代～40代の女性の大変さも私達の時代と変わってない事におどろいた。（育休、職場復帰等子供が病気の時の職場の対応等）どうかやさしい生活しやすい千歳市になって下さい。
パートナーシップは部外者がなにか考えるより当事者達に訊けばいいかと。
性的マイノリティに対する理解は必要と考えるが、最近の報道は弱者のように扱ってる気がしてそれは違うと思う。未来に子孫を残すのがふつうであり、LGがさも当然のように扱う社会に危機感を感じている。未来に繋げるためには子孫を残すことが必要なことを報道すべきと感じる。
まだまだ簡単には制度など変えられるには難しい問題ではあるが、すこしでも、性的マイノリティで悩んでる人が、特別視されないでいいようになればいいなと思う
LGBT は日本にはいないと思う、本当は禁止するべきだと思う、人口もう少ないから、子育てのかんしての方がいいだと思います。私日本こと好きだから、このままじゃ心配です！
喫緊の思いとしては温泉浴場、トイレの入場（者）が気になります。日常生活の中で「これからを生きる」私達はどのように考え行動していくべきなのか大変難しい問題だと感じています。

※1「LGBTQ」とは（それぞれの『性のあり方』の頭文字をつなげたもの）

- ・レズビアン(L)…性自認が女性で、恋愛対象が女性の人
- ・ゲイ(G)…性自認が男性で、恋愛対象が男性の人
- ・バイセクシュアル(B)…性自認が男性か女性で、恋愛対象が男女どちらにもある人
- ・トランスジェンダー(T)…割り当てられた性別と違う性別を自認している人
- ・クエスチョニング(Q)…自らの性のあり方について特定の枠に属さない人、わからない人、決めたくない人

※2「性のあり方」の考え方

- ① からだの性 … 生まれた時に割り当てられた性別（戸籍の性別）
- ② こころの性 … 自分が考えている性別（性自認）
- ③ 好きになる性 … 恋愛や性愛の対象となる性別（性的指向）
- ④ 表現する性 … 服装やしぐさ、言葉遣いなど（性表現）

※3「性的マイノリティ」（＝「LGBTQ」、「性的少数者」）

同性が好きな人や、異性だけでなく同性も好きになる人、自分の性に違和感を覚える人などのこと。

※4「パートナーシップ宣誓制度」

日本は「同性婚」が認められていないため、市町村が同性カップルを「婚姻に相当する関係」と認める制度。これにより婚姻関係にあるカップルのみに限られていた自治体サービス（公営住宅の入居、税証明の請求・交付、医療機関での手術・輸血の同意、墓所の使用等）が可能となる。現在、千歳市は、この制度を導入していません。

【令和7年12月現在 北海道内のパートナーシップ宣誓制度 導入市町村（導入年月）】

平成29年度 札幌市(H29.6)

令和3年度 江別市(R4.3)

令和4年度 函館市(R4.4)、北見市(R4.4)、帯広市(R4.12)、苫小牧市(R5.1)、岩見沢市(R5.2)

令和5年度 北斗市(R5.4)、旭川市・上川中部8町（東神楽町、美瑛町、東川町、鷹栖町、当麻町、比布町、上川町、愛別町）(R6.1)、小樽市(R6.1)、滝川市(R6.1) 深川市(R6.3)

令和6年度 釧路市(R6.4)、室蘭市(R6.4)、網走市・東オホーツク定住自立圏4町（斜里町、清里町、小清水町、大空町）(R6.4)、北広島市(R6.10)

令和7年度 石狩市、登別市、江差町、幕別町、沼田町、美幌町、津別町、訓子府町、置戸町、富良野5市町村（富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村）(R7.4)